

## 研究部の活動について

令和4年度 全国公立学校教頭会 研究部長

早川 洋一郎

### 1 コロナ禍における研究部の活動

新型コロナウイルス感染症がなかなか収束しない中、世の中ではZoom等を活用したオンライン会議やテレワークなど、「ウィズ・コロナ」による新たな生活様式に基づく社会形態を取り入れながら日常生活や社会経済活動を取り戻す動きが加速しております。学校教育でも、1人1台端末の実現により、「学校の新しい生活様式」に基づき、ICT等を活用しながら、今後どのような状況においても、子どもたちの学びを保証し、この新たな学びを充実させていくことが重要であります。そこで今年度の研究部の研究テーマを『『個別最適な学び』、『協働的な学び』を推進していくための学校としての取組と副校長・教頭の役割』と設定しました。

年間の研究部会はすべてオンラインで行い、研究会等の運営や内容について、実りある話し合いができました。また、その経験と実績が、研究大会や研究部長会、研修大会のオンライン開催が無事にできたことにつながったものと考えます。

### 2 研究大会・研修大会の内容

#### (1) 全国研究大会（岩手大会7月28、29日開催）

今年度、岩手大会は、東北地区の会員は参集、その他の地区の会員はオンラインというハイブリット形式による開催として準備を進めていましたが、直前の新型コロナウイルス感染拡大により、すべてオンライン形式に変更となりました。

研究部としては、特別分科会Iとして、日本大学教授の中橋 雄先生より、「1人1台情報端末時代に求められる情報モラルとメディア・リテラシー」という演題で講演をいただきました。

#### (2) 全国研究部長会（第1回7月8日開催、第2回12月1日開催）

第1回全国研究部長会は、愛媛大学大学院教授の露口健司先生より、「教職員のワーク・エンゲイジメントを高める働き方改革」という演題で講演をいただきました。その後、「働き方改革の効果的な事例・課題の紹介」「働き方改革について、こんなことを職員室で伝えています」を柱にグループ協議を行いました。

第2回研究部長会では、オンラインか参加かを選んでも参加するハイブリッド形式により行われました。放送大学客員准教授の倉澤 昭先生より、『『個別最適な学び』、『協働的な学び』を推進していくための学校としての取組と副校長・教頭の役割』という演題で講演をいただきました。その後、「各学校の取組や課題」についてグループ協議を行いました。

#### (3) 中央研修大会（2月10日開催）

オンライン開催により700人を超える参加者となりました。大分大学教授の清國祐二先生による『コミュニティ・スクールによって何を実現するのか』と

地域とともにある学校づくり』という演題で基調講演をいただきました。シンポジウムでは、「コミュニティ・スクールが切り拓く教育の未来と副校長・教頭の役割」をテーマに、国立教育政策研究所の藤原文雄先生をコーディネーターとして、シンポジストの川崎医療福祉大学医療技術学部教授の諏訪英広先生、特定非営利活動法人まちと学校のみらい代表で文科省CSマイスターの竹原和泉先生、全国公立学校教頭会副会長で杉並区立済美小学校副校長の吉原勇先生により「何を指して」「どのように関わって」「今後どう活用し生かしていくか」についてそれぞれの立場から語っていただきました。

### 3 研究大会・研修大会の成果と課題

全国的にオンラインによる会議や大会が定着している中で、参集とオンラインを組み合わせたハイブリット形式による大会開催という新たな試みを実施した年となりました。大会後のアンケートでは「他県の実践や課題等を共有することができ、大変参考になりました」等、多くの充実できたという内容のご意見をいただきました。

今後も、副校長・教頭の専門性の向上を目指し、全国の多くの副校長・教頭先生との情報交換ができる場を大切にしつつ、働き方改革にも対応した大会への参加形態の新たな仕組みについて内容をさらに充実させながら、令和5年度以降も研究部の活動を継続していきたいと考えております。